



クローズアップ

黄綬褒章は、その道一筋に業務に精励し、他の模範となる方を対象としています。

今季では、全国で262人、愛知県で14人の方が黄綬褒章を受章されました。

受章の感想

実感はまだありませんが、本音では嬉しいです。

職場、地域、家庭、その中で仕事に没頭できるように生かされてきたことに感謝しています。先輩に教え支えていただき、目標を達成することができたこと、その志の導きを基盤として後輩に心技を教える機会を与えていただけたいことを振り返ると多くの先輩・同僚・後輩がいます。その代表として、今回受章できたと思い、大変感謝しています。

きっかけ

1947年スペインで始まった技能五輪（国際大会）青年技能者の技術・技能を競う大会です。

黄綬褒章受章者

杉浦 成信 氏(63歳)

主な経歴

昭和41年4月 デンソー学園 工高課程入社
昭和48年4月 デンソー学園 技能開発過程指導員
昭和60年4月 技能五輪国際大会 ショップマスター委嘱
平成2年1月 デンソー学園 高等専門課程責任者
平成12年4月 国家技能検定 検定委員任命
平成23年11月 現代の名工受章（厚生労働省）
現在 株式会社デンソー デバイス製造2部
生産革新室嘱託員

苦勞

この大会は今年もドイツ・ライプツィヒで42回大会として開催されていますが、参加できる資格として、開催される年に22歳以下という年齢条件があります。昭和45年、私自身もみずからこの大会をめざし、全国大会に出場しましたが、力およばず日本代表になれませんでした。自分自身が果たせなかったことを後輩に託そうと気持ち切り替えたそのタイミングで会社から、その職種の指導員に指名されました。

国際大会どころか全国大会での日本一を育てる難しさを知りました。

社内の訓練時では実力を発揮できるのですが、大会開催地に向き、本番に至ると緊張のためか普段では考えられない致命的なミスから、体勢を取り戻すことができず、本来の力を発揮させることができないう悔しい思いをします。

そこで、選手の精神状態ががんじがらめとなる本番を、ゆとりある精神状態に変える手法を探し求め、座禅、水垢離、競歩、セルフコントロールなどを訓練に取り入れてみました。しかし、際立った効果がみられず、指導員としての未熟さを感じました。

喜び

試行錯誤を繰り返しながら指導をしてきた選手たちが、完璧な作品を創る力量とミスを認める謙虚な心の融合が鍵となり、例えば10時間で1ミクロンを競う作品を創り上げる全国大会に臨み、前半でのミスを素直に認めることで、気が抜けて、鍛え抜いた力量の発揮でミスを引きずらない、怖がらない心技体を備えることができるようになり、5年連続日本一に輝くことができたこと。また、全国大会を経て出場権を獲得した国際大会で、世界一の選手が誕生したことです。

このことから、現在もモノづくりの職場、人づくりの職場での経験発揮の機会を与えていただき、時代を担う若手の人材育成に励むことができています。

今後

平成24年度の町内会長をさせていただき、地域の人たちと関わりを持つことができました。そして、皆さんとともに町内会活動に取り組んだことから、地域への私の着地点が見えてきたと感じています。

また、地域では素晴らしい知恵を持ってみえる方々が多く活動されています。そんな皆さんといっしょにさらに住みよい地域にしていくために微力ですがお手伝いしていこうと考えています。